

I

平和・憲法問題がなぜ真宗の課題なのか

安全保障関連法が制定され、集団的自衛権の行使や自衛隊の海外での武力行使が可能にされました。改憲を目指す動きも活発です。「戦争をしない国」であり続けるのか、「戦争をする国」に転換するのか。この国は、大きな岐路に立っています。平和や憲法の問題は、私たち真宗門徒にとって、対応を迫られる重要な課題です。

しかし、このように言うと、「真宗は自己を問うものであって、そのような政治問題は真宗の課題ではない」と言う人もあります。そうでしょうか？

私も、真宗が自己を問うものであることは間違いないと思います。問題は、問われるべき「自己」とは何かです。人間は、孤立した存在ではなく、他者との関わりの中で生きています。私たちは、新興国の人が安い賃金で作った物を買っています。私たちが原発を容認してきたために、福島の人たちが原発事故で苦しんでいます。安保法によって、やがて自衛隊員が海外で住民を殺傷するかもしれません。新興国の人を低賃金で働かせ、福島の人々を苦しめ、安保法の成立・施行を許しているのが私たちです。そのような私たちこそ、問われるべき「自己」です。そのような「自己」を問えば、政治や社会を問わざるを得ません。自己と政治・社会を共に課題として問うていくのが、真宗門徒です。政治や社会は、まさに真宗門徒である自己の課題です。

筆者紹介 平川 宗信（ひらかわ むねのぶ）

中京大学名誉教授、名古屋大学名誉教授。刑事法学専攻。東京大学法学部卒。真宗念仏者として真宗に立脚した刑事法学を模索。著書に『刑事法の基礎』、『報道被害とメディア改革』。講演録に『憲法と真宗』（京都・願生の会）、『真宗と社会問題』（広島・圓光寺）など。

II

私たちが求める国

真宗の教えは、「念仏して、浄土に生まれ(浄土往生)、本願に生きる」ということです。「浄土に生まれる」とことと「本願に生きる」ことは、一つです。本願に生きることなしに、浄土に生まれることはありません。私たちは、樂になりたいために、浄土往生を求めても、本願に生きることは忘れがちです。しかし、本願に生きる生活が始まるのが、浄土に生まれることです。それが、人間の本当のすくいです。

「本願に生きる」とは、どういう生き方でしょうか。人間のいのちの根底には、「すべてのいのちと一つ世界を共に生きたい」という深い願いがあります。あらゆる人間の上に、「いのち」となって生きている。それが如来です。如来のはたらきである、この根源的要求、普遍的願いが、「本願」です。本願が成就した世界が、「浄土」です。

本願は、48の願として展開されます。第一願は、「地獄・餓鬼・畜生の三悪趣のない国」を求める「無三悪趣の願」です。戦争は「地獄」、飢餓・欠乏や貪欲は「餓鬼」、他者に従属した人間は「畜生」でしょう。それがなく国を求めるのが、第一願です。親鸞聖人は、「世の中安穩なれ、^{あんのん} 仏法広まれ」と言われます。「世の中安穩なれ」は、「世界が平和であれ」ということです。「地獄・餓鬼・畜生」がなく安穩である国が真に平和な国であり、それが浄土です。現実社会を真に平和な国、浄土を求めて生きることが、「本願に生きる」ことであり、真宗門徒そして人間として生きることです。

III

「本願国家宣言」としての日本国憲法

国のあり方を決めるのは、憲法です。現在の日本国憲法は、前文で次のように宣言しています。

日本国民は、恒久の平和を念願し、人間相互の関係を支配する崇高な理想を深く自覚するのであって、平和を愛する諸国民の公正と信義に信頼して、われらの安全と生存を保持しようと決意した。われらは、平和を維持し、専制と隷従、^{れい} 専制と隷従、^{じゆう} 専制と隷従、^{べんきよう} 専制と隷従、^{べんきよう} 専制と隷従を地上から永遠に除去しようと努めてゐる国際社会において、名誉ある地位を占めたいと思ふ。われらは、全世界の国民が、ひとしく恐怖と欠乏から免かれ、平和のうちに生存する権利を有することを確認する。

ここには、真宗と通じるものがあります。「恒久の平和」は「浄土」と、「崇高な理想」は「本願」と重なります。そして、「諸国民の公正と信義に信頼」できるのは、すべての人間のいのちの根底に本願があるからです。これは、「日本国民は本願力を持って平和を維持する」という宣言です。そして、地上から「専制・隷従・圧迫・偏狭・恐怖・欠乏」をなくすのに貢献するという誓約は、「地獄・餓鬼・畜生をなくす」という無三悪趣の願と重なります。さらに、戦争放棄・戦力不保持を定めた第9条は、釈尊の「殺すな、殺させるな」という「不殺生戒」、そして仏説無量寿経の「兵戈無用」(武器も兵隊もいらない)に重なります。日本国憲法は、「日本は、武力ではなく本願力を持ち、本願が願う国、浄土を追求します」という「本願国家宣言」とも言えます。

「しんらん交流館」の Facebook ページを開設しています。

しんらん交流館 Facebook

検索